



大きな窓から陽光が降り注ぐ2階のロビー



2階入り口となる歩行者デッキは市役所、市立病院とつながる

市民生活支える多様な設備

石巻市ささえあいセンター

市役所西隣に30日にオープンする石巻市ささえあいセンターは、鉄骨造3階で、延べ床面積は4,256平方メートル。医療、介護、保健、福祉のサービスを地域と連携して一体的に提供するとともに、子育て支援や障害者支援にも重点を置いた多様な設備で市民生活を支えていきます。

センターは1階が駐車場、駐輪場です。市役所、市立病院に通じる歩行者デッキがある2階には、総合受付とミーティングルーム、子育て世代包括支援センター、子育て交流室、市民交流室や福祉関連の相談室などを配置しました。

3階は市社会福祉協議会の事務所や200人が収容できる「ささえあいホー

ル」、介護予防体操などの健康づくりの場となる「市民活動室」などがあり、災害時には福祉避難所として活用できるように、簡易ベッドや食料品などの備蓄倉庫も備えました。

2、3階の東側は吹き抜けのガラス張りになっており、2階にはロビー、3階には展示スペースを設け、訪れた人たちが明るい日差しを浴びながら、ゆったりとくつろげる空間になっています。

図 包括ケア推進室(内線2572)



200人収容できる3階の「ささえあいホール」



介護予防体操などの健康づくりに使われる市民活動室



子育て世代の利用者のために2、3階には授乳室も備えた

五輪の聖火 被災地に希望届ける

南浜津波復興祈念公園で「復興の火」展示



東京2020オリンピックの聖火が「復興の火」として3月20日、南浜町の石巻南浜津波復興祈念公園に展示されました。同公園の中核的施設で記念式典が行われた後、施設の外に設置された聖火皿に亀山市長が点火。聖火皿に炎が上ると見守った村井知事、聖火リレー公式アンバサダーの「サンドウィッチマン」の伊達みきおさんと富澤たけしさんや公開を待ちかねた200人を超える市民から、大きな拍手が湧き起こりました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、東京2020オリンピックは来年に延期されましたが、この日夜まで公開された「復興の火」は、被災地を応援する希望の光として、市民を元気づけました。

図 東京オリンピック・パラリンピック推進室(内線4250)